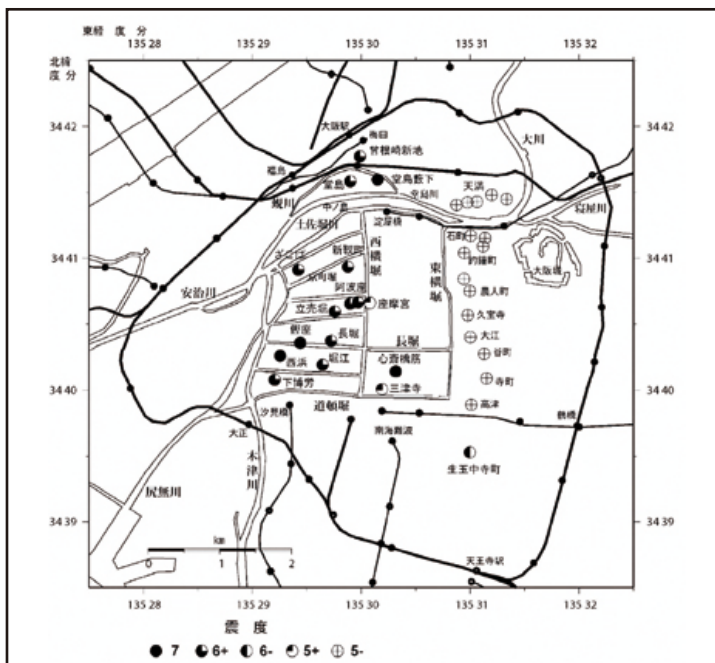


2. 過去の災害

■ 震災 – 300年前の宝永地震は日本最大級！

宝永4年（1707年）に発生した宝永地震は、南海トラフのほぼ全域にわたってプレート間の断層破壊が発生したと推定され、記録に残る日本最大級の地震とされてきました。この地震による津波が大阪に大きな被害をもたらしましたことが語り継がれていますが、震度面でも、堂島付近で震度7の大きな揺れが生じたとの記録も残されています。

宝永地震



宝永地震（1707）による大阪三郷（北組、南組、天満組）地域の地震分布
 出典：歴史地震第22号（2007）[講演要旨]大阪府における宝永地震（1707）、及び安政南海地震（1854）の詳細震度分布 都司嘉宣（東大地震研）

■水害 – 繰り返された河川氾濫を契機に、大規模な河川改修事業が行われた！

明治初期に相次いだ淀川の氾濫は、市中に多大な被害を及ぼし、治水対策として淀川の直線化、バイパスとなる新淀川開削、毛馬洗堰の設置などを柱とする大規模な改修事業が行われ、明治42年（1909年）に完工しました。

新淀川開削



明治18年の洪水で浸水した地域
出典：淀川河川事務所ホームページ



淀川改修流路図
出典：陸地測量部明治18年測量地図

過去の大型台風

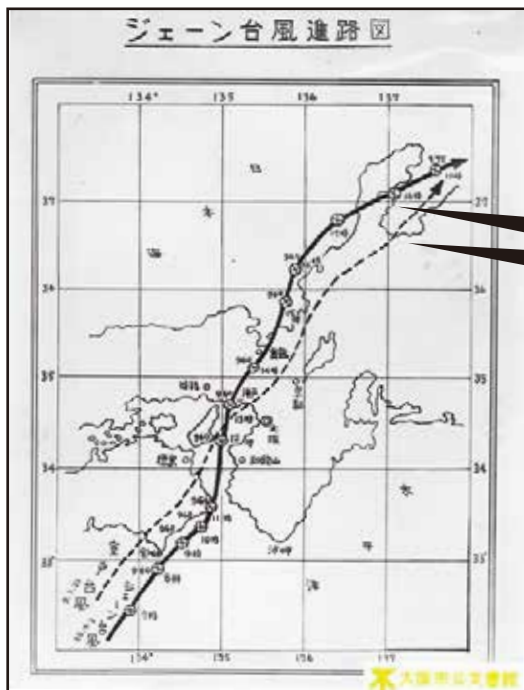
昭和9年（1934年）室戸台風が来襲。大阪府の被害が各府県のなかでもっとも大きく、全国の行方不明を含めた死者のうち、大阪は約6割を占め、豊崎小学校の校舎が倒壊し児童19名が亡くなりました。被害を大きくしたのは高潮被害でした。北区では済美・曾根崎小学校の木造校舎が全壊する被害に遭いました。その後も昭和25年（1950年）ジェーン台風、昭和36年（1961年）第二室戸台風が地盤沈下の進んだ大阪を襲い、甚大な被害を与えました。



室戸台風の被害
出典：大阪市公文書館 平成26年度常設展示資料



堂島・土佐堀川の溢水状況（第二室戸台風）
出典：第二室戸台風の高潮による大阪市内浸水実績図 大阪府土木部 平成3年9月



台風がこのルートを通ると
大阪に最も甚大な被害をもたらす

ジェーン台風進路図
出典：大阪市公文書館ホームページ

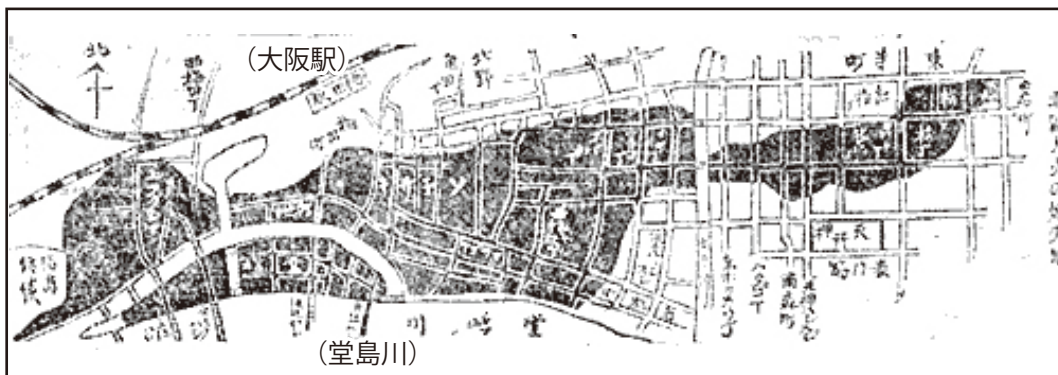


地盤沈下で水面と屋根の高さが同じに（昭和初期）
出典：デジタルギャラリー 2010

■火災・戦災 – 明治42年の大火で北区の大部分が焼失した（甲子園球場308個分の面積）

キタの
大火

明治42年（1909年）に「キタの大火」と呼ばれる大火事が発生しました。空心町付近で出火した火災は西へ広がり、堂島、曾根崎一帯にまで達し、当時の北区の大部分が焼失しました。この火災の復興事業として曾根崎川（蜷川）が埋め立てられたほか、四つ橋筋、天神橋筋などの拡幅、国道1・2号の新設が行われ、大火の前年に完成していた淀屋橋から大阪駅までの梅田新道（現御堂筋）とあわせて都市基盤が向上しました。

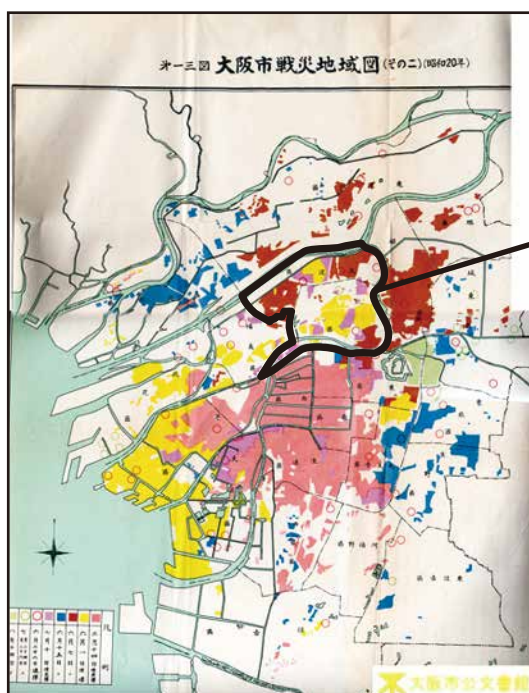


明治42年のキタの大火（若松町・控訴院付近）
出典：大阪市公文書館 平成26年度常設展示資料

大阪
大空襲

昭和20年3月13日深夜から14日未明にかけての大阪大空襲では、旧北区内の4分の1が焼失する被害を受けました。また、6月1日と7日には旧大淀区域も含め広範囲に爆弾が落ち、度重なる空襲によって、近代化に努めてきたまちは廃墟に変わりました。

終戦後、震災復興の土地区画整理事業や各種の市街地開発事業により街区の整備が行われたが、戦火を免れたエリアに密集市街地が残っています。



大阪市戦災地域図
出典：デジタルギャラリー 2005

<巻末資料>
→北区災害年表